

第2回 ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会 資料

関わりのステップをデザインする

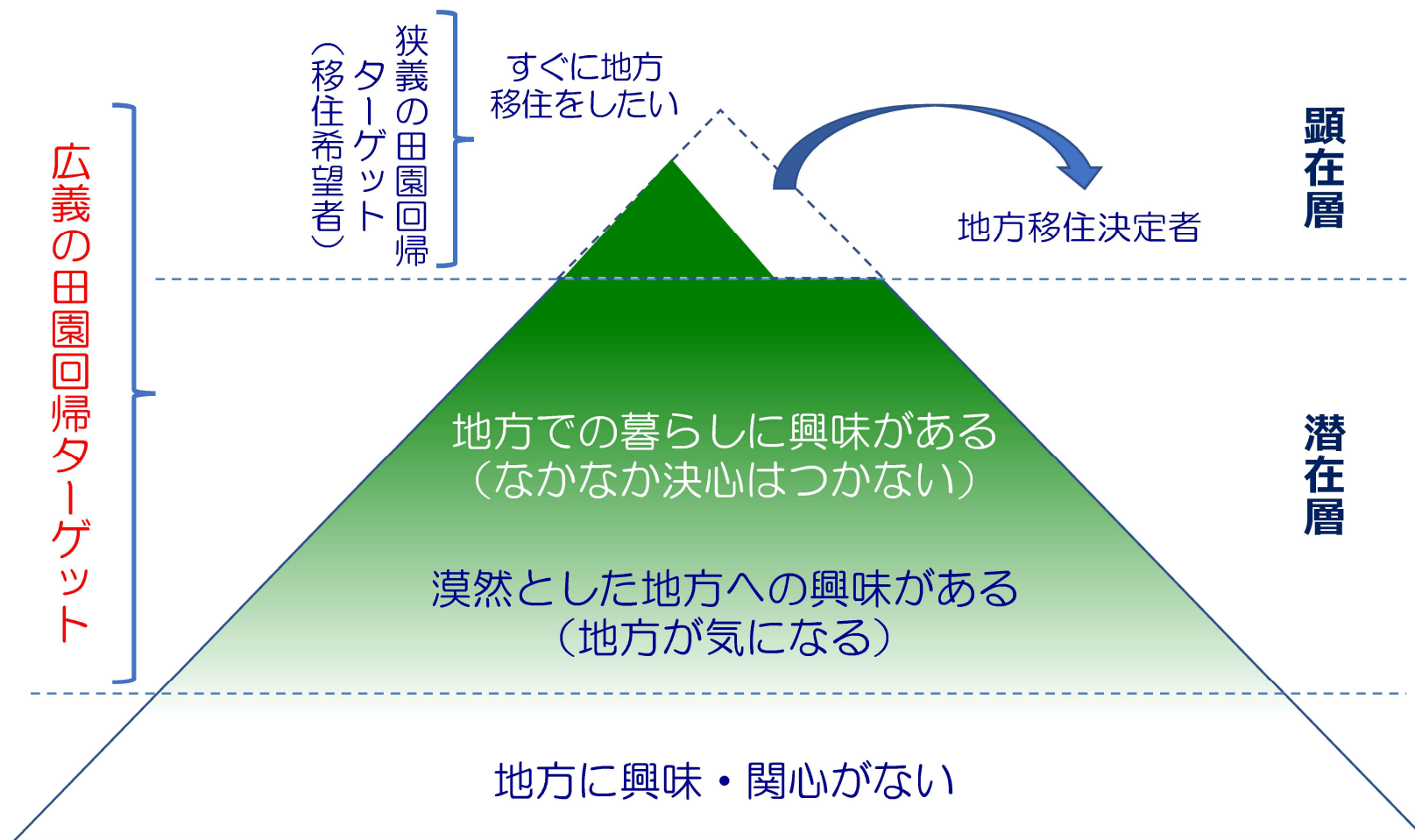
2020年8月4日

NPO法人ふるさと回帰支援センター

嵩 和雄

「地方への関心層」の取り込み

◆地方への興味の段階



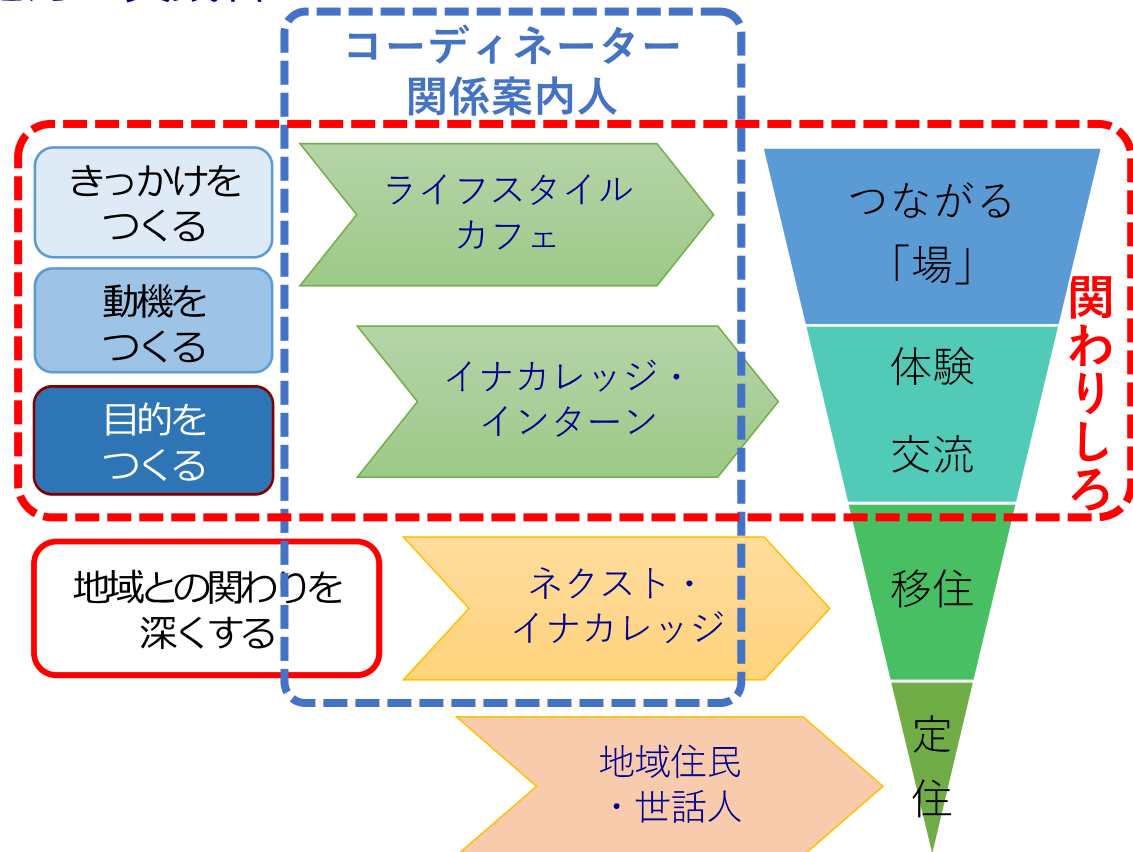
移住の前段階としての関係づくり

にいがたライフスタイルカフェ（2015～）

「潜在層」へのアプローチ = 移住のハードルを下げる

ローカルコミュニティの紹介 → “地方での暮らし”を考える機会

- ・「キャッチーなテーマ設定」と多彩なゲスト
- ・移住者・出身者・別の地方の実践者

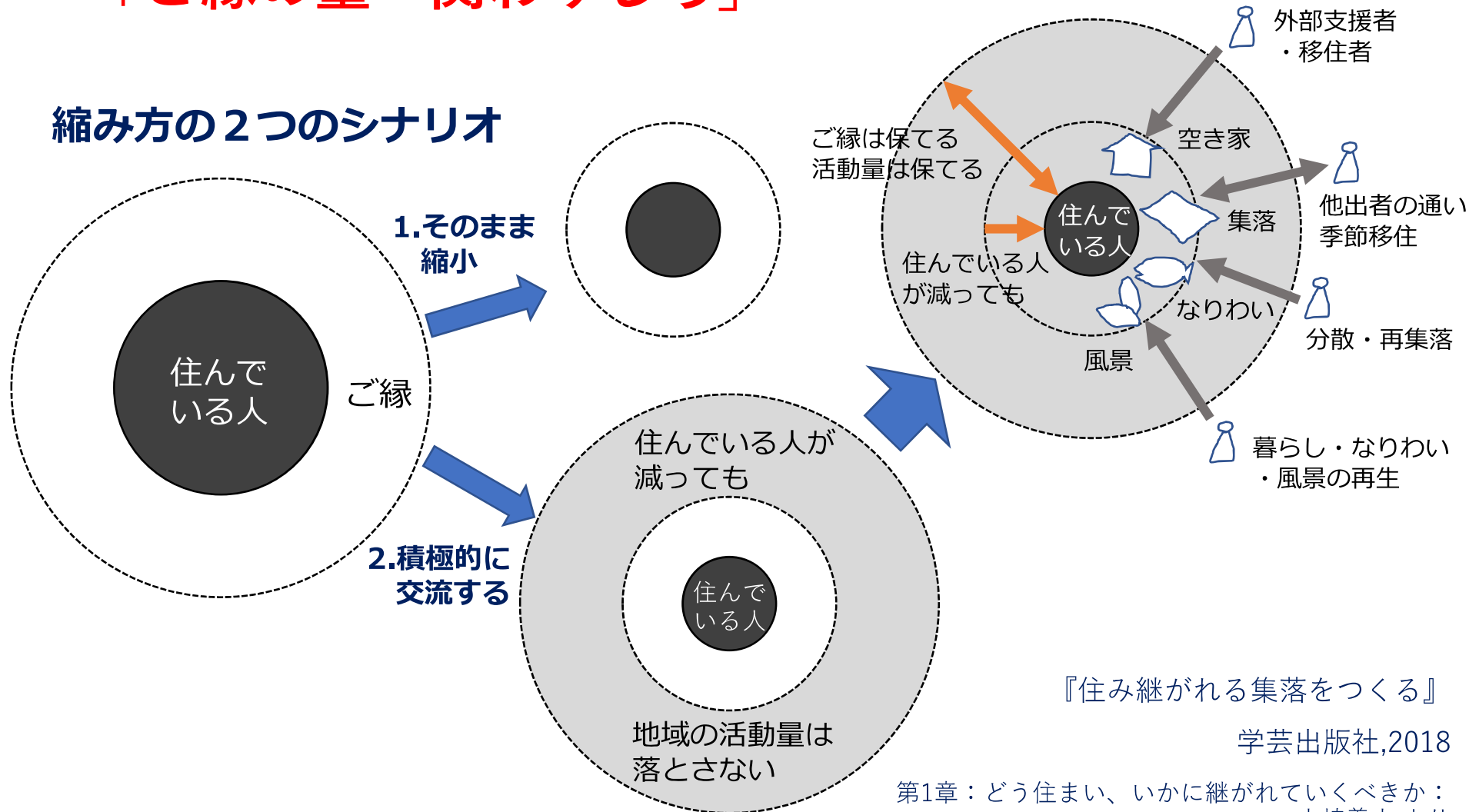


地域を住み継ぐために

人口が減っても交流等によって**集落内の「ご縁の量」を保つ**ことで、
新規居住者が現れる**偶発的な可能性を広げていく**ことができるのでは？

「ご縁の量＝関わりしろ」

縮み方の2つのシナリオ



『住み継がれる集落をつくる』

学芸出版社,2018

第1章：どう住まい、いかに継がれていくべきか：
山崎義人 より

関わりのステップをデザインする

環境学習の分野では・・・

in nature

自然に触れ合う

自然環境に関わる
機会

about nature

自然ってなんだろう

自然環境への関心
の高まり

for nature

自然のための行動

自然環境に関わり
続ける目的

関わりのステップをデザインする

安心院グリーンツーリズム研究会（大分県宇佐市）

- 一回泊まれば遠い親戚、十回泊まれば本物の親戚
複数回の訪問で関係は深まる



関わりのステップをデザインする

九州ツーリズム大学（熊本県小国町：H9～H26）

・ グリーン・ツーリズムを学ぶ「市民大学」



□ 受講生は都市住民と農村住民

- 双方が机を並べる対等な関係
- 夜の飲み会で相互交流を実践

□ 半年間2泊3日/月の講義の中で「地域」を学ぶ

- 地域の見方を変える／座学と実習
- 都市住民のまなざし／地域住民のまなざし

□ 多分野からの地域へのアプローチ

- 農学、観光学、土木工学、社会学、地理学、経済学、etc



卒業生が移住のケースも
鍵を握る「拠点」と「現地コーディネーター」



関わりのステップをデザインする

『若女将インターン』（福井県若狭町）

約2週間の民宿体験研修（インターンシップ事業）

インターンOGを「**観光サポーター**」として委嘱

- ・ SNSでの情報発信やイベントへ参加
- ・ 大学の学食での特産品販売
- ・ タレントになったOGが「梅酒大使」

もっと地域の人たち
と関わりたい！

お世話になった地域
に恩返ししたい！



「もっと関わりたい人」を活かす『場』と『役割』

「関係」構築だけでなく「**関係**」を持続させるための**地域側からのアプローチ**

関わりのステップをデザインする

in ○○町

○○町に行ってみる

about ○○町

○○町ってどんなところなんだろう

for ○○町

○○町のためになにかしたい

with ○○町

○○町のみんなと一緒に活動
したい

**地域に関わる
きっかけづくり**

安心院町
：農家民泊

**地域への関心を
高める場づくり**

小国町：九州
ツーリズム大学

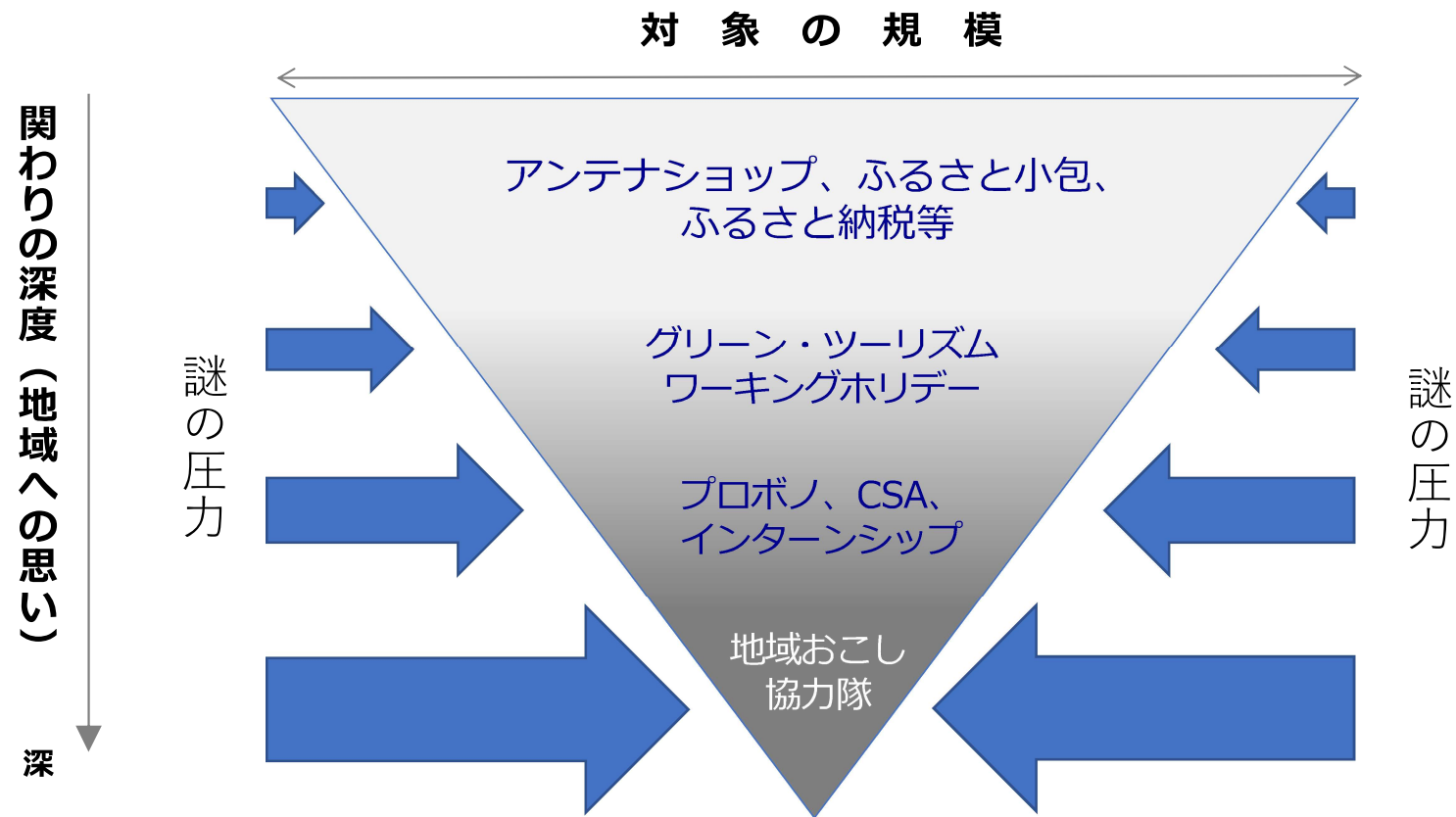
**地域に関わり続ける
目的づくり**

若狭町：若女将
インターンシップ

**対等な立場での共働・共創
の場づくりと役割づくり**

小国町：廃線跡活用プロ
ジェクト

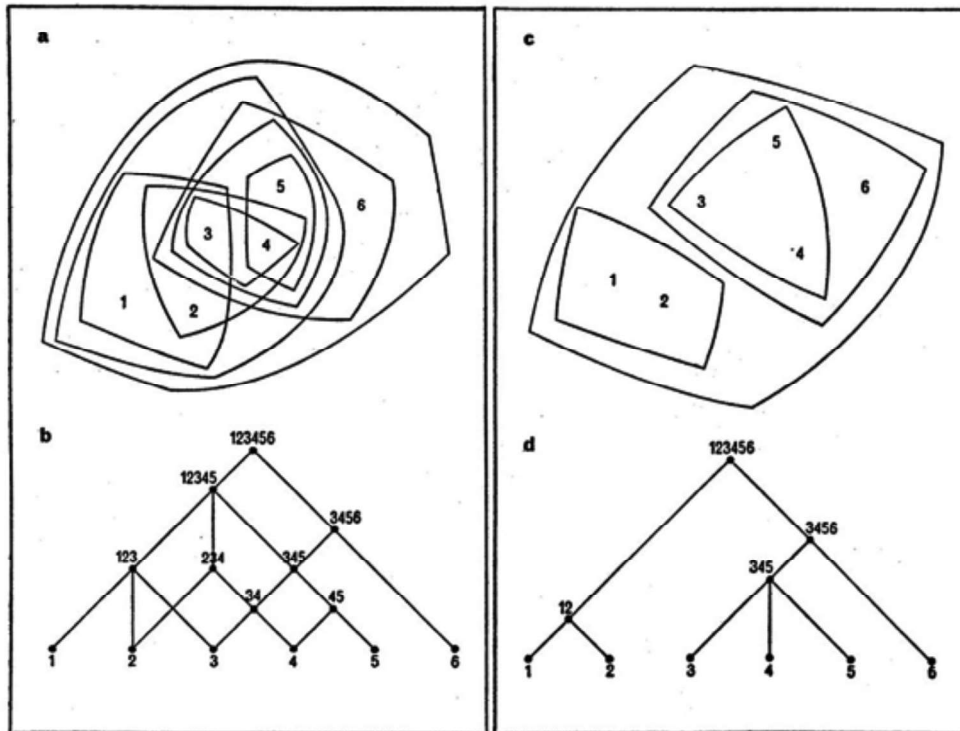
関わりのステップをデザインする



つながりの深化と分化

セミラティス

ツリー



「A City is Not a Tree」 C・アレクサンダー 1965

• ツリー

重なりを持たない階層構造

「他者」の介在するポイント
(ノード) が少ない

• セミラティス

重なりのある構造

「他者」の介在するポイント
(ノード) が多い

- 関係の深さ = 関わった時間 × 熱量 (思い)
- 関係の広さ = 繋がり幅と興味幅
- リゾーム化社会 = 関係の深化と分化-中心を持たない分散化社会